



学校だより No.8

加治木の風

「読書・あいさつ・あせ」
始良市立加治木小学校
令和2年11月10日

9年前の教訓（津波防災の日 [11月5日] にちなんで）

9年前（2011年）の3月11日、わが国を未曾有の大災害が襲いました。東北地方を中心に発生した大地震とその後の津波で多くの人の命や財産、日常が奪われたのです。今でも、あのときテレビの画面に映し出された津波がまちを呑み込んでいく光景が鮮明によみがえります。年月と共に復興も進んでいると聞きますが、未だに仮設住宅での生活を余儀なくされている方々もいらっしやると聞きます。改めてお見舞い申し上げます。

ところで、わが国は世界的にも地震が多い地域です。また、火山も多く、四方を海で囲まれています。私たち日本人はその恩恵をたくさん享受する一方で、災害という形で自然の脅威を思い知らされてきました。しかし、どうしても災害から年月が経つと人々から災害への備えの意識が薄れてしまいがちです。人は身近に災害が発生しても「決して自分には災害が襲ってくるはずがない。」という意識が働くそうです。（これを**正常性バイアス**と言います。）これが、逃げるのを躊躇させる原因になるのだそうです。だからこそ、私たちは訓練を通して、災害はいつでも発生することを意識し、発生した場合の行動についてシミュレーションをしておかなければならないのです。

11月5日は、9年前の大災害を教訓に「津波防災の日」として設定されました。9年前、多くの人の命が奪われる中で、奇跡的に多くの命が助かったまちがあります。それが岩手県釜石市です。「釜石の奇跡」と呼ばれるものです。

当時、釜石市の小中学校では、学校教育の中で、地震や津波が発生した場合にどのような行動をとればよいか、防災プログラムによる学習がなされていました。その中で教えられていた3つの原則を子供たちが実行したのです。ある中学校では生徒が自主的に避難を開始し、「津波が来るぞ。」と叫びながら避難しました。ある中学生は小学生の手を引き、ある中学生は幼児の乗ったベビーカーを押しながら避難したそうです。また、一次避難所でもより安全な高い場所への避難を呼びかけたのも生徒たちだったそうです。

【災害対応の3つの原則】

- 1 想定にとらわれるな。
- 2 最善を尽くせ。
- 3 率先避難者たれ。



この3つの原則は、教訓としていかなければなりません。

学校でも市の防災無線に合わせて避難訓練を行いました。

11月14日は校区コミュニティーと合同で防災講演会も予定しています。災害はいつ、どこで発生するか分かりません。避難訓練の最後に「今日の宿題は、もし家にいるときに地震や津波が起きたらどこに逃げればいいのかおうちの人と話し合っておくこと。」と話をしました。家族で確認ができているでしょうか。



マメ知識

- ☆ 陸に上がった津波の速さ～大人の人が全力で走る程度の速さ（時速三十数km）
- ☆ 加治木小の海拔～ 5 m, （2階の高さ 7.5 m）